

# 1 令和5年度第3回定例会

日 時： 令和5年8月22日（火）午後2時30分から午後4時00分

場 所： 中央図書館活動室2・3

出席者： （図書館協議会委員）委員6名  
（事務局）図書館長、企画運営担当主査、  
総務担当主査

会長 本日は委員1名が欠席である。多摩市図書館協議会規則第4条により令和5年度多摩市図書館協議会第3回定例会を開催する。

事務局から配布資料の確認をする。

事務局 配布資料確認。

会長 議題1 令和4年度図書館事業評価について、事務局から説明をお願いします。

図書館長 資料3-1である。前回の会議で2つの項目について評価いただいたものを資料に加筆してある。それについては、次回まとめて協議いただきたい。メールで会議録も送付しているので、見比べて確認いただきたい。本日は残り3つの項目について評価いただきたい。

前回の協議会の中で実施結果についてもう少し知りたいとあったことについても加筆してある。下線でわかるようにしてある。

資料の10ページ基本目標（3）市民や地域に役立つ図書館の取り組み5読書活動に取り組む団体の支援である。実施結果と自己評価を記載しているが、前回記入の仕方がほぼ一緒ではないかのご指摘いただいたところである。

① 団体貸出を通じて図書館以外でも資料を提供できる場を提供し、図書館資料の利用機会を増やす

② 図書館で不要になった雑誌を市内小中学校や児童館、パルテノン多摩などに提供し、有効活用する

ということで市内の小中学校などに資料を配布したり、パルテノン多摩のライブラリーラウンジに団体貸出を行った。

③ 児童館や学童がセット貸出をより利用しやすくなる方法を検討し、実施する

ということでロゴフォームからの申し込みの実施をした。

- ④ 団体貸出につながるように児童館や学童クラブが併設している図書館で情報提供や資料の提供を積極的に実施する

ということで複合施設の中の学童クラブに本を定期的に長期間置いて利用状況をみた。

その結果としての図書館の自己評価は3点ある。1点目は、幼稚園・保育園にセット貸出を行う準備を行ったということは基本目標(2)にも記載したとおりである。2点目は、リニューアルしたパルテノン多摩の4階のライブラリーラウンジに団体貸出をし、市民の方への図書館のPRに役立った。公園は工事中であるが、開館後、ライブラリーラウンジから図書館へきてもらえる流れができるように工夫をする。3点目は、ロゴフォームでの申し込みの実施という手法を考え、申込団体の利用の負担が減るため、利便性の向上の有力な手法ということで効果が大きいと考え継続していきたいと考える。

取り組み8 地域資料の活用による地域文化の継承

- ① 中央図書館開館に向けて「地域資料整理方針」を策定する

ということについては、策定をした。

- ② 多摩ニュータウン関係資料の充実

については、資料の寄贈を受けていたので寄贈者からヒアリングを数回に分けて行い、今後の整理もさらに必要であるが、料としては170箱整理して受け入れた。

- ③ 多摩市デジタルアーカイブの活用促進のためのパンフレットを作成し、配布、ホームページ等で公開する

令和4年度は利用促進を掲げており、多摩市文化振興財団の講演会でも多摩市デジタルアーカイブについて職員が講演をして、利用促進と使い方について講師を行った。

- ④ 多摩市デジタルアーカイブと連動した企画展示などのイベントを教育委員会文化財担当、パルテノン多摩学芸担当と連携し、実施する

については、継続して実施しているところであるが、展示を行い、今後デジタルアーカイブの公開内容についてコンテンツが追加できないかという検討を始めたところである。

そういった中での図書館の自己評価として1点目は「地域資料の資料収集要領」を策定したということが大きな成果である。2点目は寄贈を受けた資料についてヒアリングを行っていく中

で、本館の閉架書庫にあった資料で整理がついていないものについて中央図書館で開架に出すための準備ができた。3点目はデジタルアーカイブについて様々な機会を通して利用促進のPRができた。4点目は関係課との地域資料に関する連携企画展示も実施を行い、図書館の地域資料に対し関心を持っていただくということで進めてきた。

基本目標（5）弾力的な管理・運営の取り組み14ボランティア活動の促進である。

取り組み内容としては、読書活動振興のためのイベントを市内の医療施設、大学などと協働で実施するという進めてきた。

実施結果としては、図書館カフェの開催をした。これについては前回の協議でおはなしした。また、ビブリオバトルの実施し、本館閉館と中央図書館の開館に際し、イベントのアイデアを市民のみなさんから募集をした。今まで図書館をあまり利用していなかったり、感心がなかったり、どのように関わっていけばいいかわからなかったという方も含めて、手を挙げていただきイベント等の準備を進めてきた。それらについての図書館の自己評価であるが、高齢者を対象とした図書館カフェは実際の参加者は少なかったが新しい取り組みということで次年度以降の開催につなげることができた。2点目は、本館の閉館・中央図書館の開館を記念したイベントを募集したところ、予想以上の応募があり、図書館と一緒にイベントを行いたい市民の存在を認識することができた。これまでの図書館とかかわることのなかった市民とつながることができたきっかけと感じている。それが今年度のさまざまなイベントや講座につながっている。3点目は、市民活動との連携、協働について検討していくことにつなげていきたい。図書館としての自己評価は以上である。

会長 基本目標（3）は前の部分と重複しているところが多い。ロゴフォームで募集しているとのことだが、説明いただきたい。

図書館長 図書館HPから入力フォームに入力し申し込むかたちである。以前は、FAXであった。簡単に入力すれば申し込みができ利便性がある。今は様々な申し込み手段で他のところでもフォームで入力となっているので、図書館も利用した。

企画運営担当主査 電話やFAXだけの申し込みであると時間に制約があったが、いつでもインターネットで申し込める方がやりやすいという声があった。

- 委員 児童館と学童だけか。
- 図書館長 今年度から保育園と幼稚園を開始した。昨年度はその準備のため、アンケートを実施した。
- 委員 HPで見たら、リストが多数種類あったので、見やすくなったと思った。
- 図書館長 セット貸出については内容を見せず、貸す方法もあるが内容を見た方がいいだろうと思った。そういう意味でリストも細かくなっている。
- 委員 団体のセット貸の方法がよくわかった。
- 委員 セット貸出を開始する前は、個々に借りに来ていたと思うが、そういう貸出方は現在していないのか。
- 企画運営担当主査 実施している。セット貸出はプラスアルファなので、直接、選ぶこともできる。ただ、個々に選んだものは各自で持って帰っていただくが、セット貸出は配送まで図書館が行う。返却も連絡便で行うので利便性があがり、利用しやすくなった。来館しなくてもできる。
- 会長 ログフォームの取り組みは成功したということか。
- 図書館長 そう思っている。
- 委員 ③については、目標を達成したとのことである。①②④についてはいかがか。
- 図書館長 ①については、幼稚園と保育園の貸出を実施したいということで準備を進めて、令和5年度に実施できたので、この制度を作るという目標は達成できた。②については、実施はできているが、書架の入れ替えや利用状況の把握をしていきたいというところがあるので、感覚的だが達成率は7割くらいだろうと思う。
- 委員 ①についてアンケートを実施したというが、回答率は3割である。まだまだ実施していく必要があると思う。②については学童21施設のうち、3施設実施ということであるからまだまだ充実を図る必要があると思う。特別支援学級にも広げる余地があるのではないか。評価はできるがまだまだ引き続き取り組む必要があると思う。
- 子どもたちが図書館に来たくても行けない、でも学童に行っているという場合、本を手取る場所が必要だと思う。そういう意味ではこの項目はとても重要で今後も力を入れていただきたいと思う。
- 図書館長 おっしゃる通りだと思うが、全館・全園・全団体にセット貸

出をしてもらおうというところまでは目標としていない。一つの貸出方法として制度を整えるというところを目標としている。それぞれの団体もセット貸出を利用する場合と来て選びたい場合もあると思う。ただ、セット貸出を利用いただいた団体には図書館のホームページからアンケートを行っており、アンケートの結果を見ながら改良を加えたり、さらに利用していない団体には周知をしていく必要があると思っている。

副会長 自己評価のところであるが、先ほど委員がおっしゃったセット貸出のバリエーションの豊富さや中身を示したことがかなり利用促進に響いていると思うが、図書館の自己評価にはロゴフォームからの申し込みがかなり影響があったと書いてある。委員がおっしゃった部分も評価として入れたほうがいいと思う。

会長 自己評価は公開するが、必ずしも全員の方が議事録と結果を読み込んで見るわけではないので経過で重要なことがあるなら記載した方がいいと思う。

委員 園長会でポスターをいただいた。直接来てご説明いただいたのでよくわかった。ただポスターだけだと通り過ぎてしまうこともあると思う。全部の園を目標にされていないということであったがいずれはたどり着けたらいいと思う。

会長 「ボードゲーム&おりがみで遊ぼう」をライブラリーラウンジで行うことで参加者に知ってもらうことができたとあるが、何をもってしてもらったことができたかと評価したのか。

図書館長 アンケートなどは行っていないが、来た方と会話をしながらやっているのでもそこの感覚になってしまう。非常に盛況であった。

企画運営担当主査 4階のライブラリーラウンジに来るのがほぼ初めての方が多かった。当初は、そんなに盛況になるとは思わず、作業机1つか2つで対応するつもりでいたが、実態としては公園のイベントなどを回遊した人たちが折り紙やりたいと席がひっきりなしにずっと埋まっている状態で盛況であった。そこで本があることに気づくという感じであった。

委員 パルテノンをよく利用するが、図書館以外でも資料を手に行ける機会を得るということによりよいことだと思う。

会長 パルテノン多摩の4階にライブラリーラウンジがあるんだとその存在さえ知らなかった人たちが1日のイベントで知ることができたということは結果的にはすごいことだと思う。

委員 オリーブの本は、最初のころは本が雑然と置いてあってぐち

やぐちゃになっていたが最近はよく整理されている。図書館から整理に行っているのか。せつくなのであちらの棚なども使って情報を発信していけたらよいと思う。

図書館長  
会長

2週間に1回整理に行っている。

基本目標（3）取り組み8地域資料の活用による地域文化の継承に移る。

図書館長

再掲しているところはない。

①については、策定する目標に対して、策定したということである。②については、実施結果と自己評価で同じことが書いてある。

副会長

実施結果は、できたところまでで、自己評価に状況や効果を入れた方が見やすくなるのではないか。重複する内容は削った方がよい。

図書館長

①についてはできたのが、3月末だったので、今年度から実施しているところである。実施結果や経緯について、いつできたかも書いた方がよい。

副会長

いつできたか書くことは重要で、年度途中でできていれば、効果もふんだんに書ける。

委員

① ②の項目の意義は大きいと思う。地域のことは家でおじいちゃんおばあちゃんに聞けばわかるが、多摩ニュータウンは50年であるからそういう人がいない。資料は大事である。パルテノンの学芸員さんや絵本を活用している。一層、力を入れていただきたい。

「知の地域創造」人々の歴史や文化に取り組んでいただきたい。

③の下から5行目は、主語述語が曖昧で直した方がいいのではないか。だれがしたのか。だれが対象だったのか。

図書館長  
副会長

③の文書はわかりやすく直す。

②寄贈者からのヒアリングはどの程度したのか。

図書館長

5・6回くらい。寄贈者の方は、ニュータウンの開発・設計にかかわった方である。膨大な資料の説明を聞きながら、分類していった。お仕事にかかわるいろいろな資料を寄贈いただいたので、どの資料にかかわるのか聞かないとわからなかった。

副会長

ヒアリングの質や量についても記載していいのではないか。見えるようになった方がやっていることが明確にわかると思う。

会長

④実施結果と自己評価の視点が違う。自己評価はここに書い

ていない。取り組みを見ないとわからない。

図書館長 実施報告の内容の後半のところは実施結果に書くべきであった。表記を修正する。

会長 基本目標（５）取り組み１４ボランティア活動の促進である。基本目標（１）と重複している部分がある。想定以上のイベントアイデアの応募があったと聞いている。

図書館長 目標の取り組みとしては、より多様なボランティア活動の促進というところがあり、最終的な目標は活動促進に向けた組織作りであるが、そこまですぐには辿り着けないので、市内の医療施設、大学などと協働で実施するという目標にしている。本館の閉館と中央図書館の開館というタイミングで市民のみなさんとイベントをやっていく方法として、結果として、読み聞かせや障がい者サービスというところでボランティアさんがいたが、いままでの事業でないところでの一緒に事業をやるやり方として模索した結果である。項目だけを実施結果に書いた。

副会長 ①市民と具体的なイベントを通して繋がることができた。今後のボランティア活動につなげるきっかけができたことが自己評価ではないか。図書館カフェの当初の目的は、図書館から離れた人を連れ戻すことであった。それがとても難しいということがよくわかった。今後こうすべきだということも評価にいられていくとよい。市民の方からいろんなアイデアが出たということは素晴らしいことである。それをうまく育てていくのも図書館の役割ではないか。

会長 図書館と一緒にイベントを行いたい市民の存在を認識することができたと言えるのか？予想以上の応募があったことは事実だと思うが。本館閉館と中央図書館開館という大イベントがあったことが要因ではないか。

委員 図書館と一緒にイベントを行いたい市民の存在を認識することができたというよりは、図書館で自分のやりたいことを実現させただけではないか。そういう人たちにこれからも一緒にやっていこうと取り込むことが大切である。

会長 ボランティアっていうのは、自己実現である。自分の自己実現によって第三者に役に立つということが楽しみである。うまく取り込むことが必要である。

図書館長 令和４年度の評価であるので、年度が明けて、図書館としてどうしていくかということが見えてきたところである。まとめた時期がわかりづらい時期だった。

- 委員  
会長 キーワードはボランティアと図書館の協働であると思う。  
2番目と3番目の自己評価の内容が一緒でないか？  
図書館がほんとに好きで書架整理でもいいから図書館に居たいという人もいる。ただ、仕事にすると齟齬が生じる。ボランティアさんを充てにするのは難しいがうまく自己実現と図書館側の思惑とバランスがとれていくのが理想である。
- 図書館長 基本計画の中にもそのような項目がある。作業のあてにはしない。考え方なども含め、整えていかななくてはいけないと思う。
- 会長 仕組みを考えないといけない。
- 委員 自己実現のためのボランティア活動もあるが、図書館に行きたくてもいけない子供たちもいる。港区では、病院に図書館の本を貸し出しているところもある。多摩市でも島田療育園や病院などにいる子どもたちにも本を届けてほしい。そういう機会を設けるボランティアの形もあるのではないかと思う。
- 会長 評価はここまでとする。  
報告をお願いします。
- 図書館長 まとめて報告をする。  
1点目が資料3-2「多摩市立図書館開館後の利用状況等について」である。前回7月19日までで状況をお知らせした。7月末までの報告である。開館後の利用状況について7月は2日間の休館日があったが、総数としては、入館者数128,718人、貸出者数25,940人、貸出冊数61,293冊であり、1日あたりは表記してあるとおりである。入館者数は土日祝日は約5,000人が来館、平日は約3,000人が来館しているというのが7月の状況である。貸出者数も前回報告した通りであるが、7月の後半になるに従って来館者数も少しづつ減っているというところもあり、来館者数の2割から3割程度と統計としてはでている。貸出冊数は、昨年度の本館の1日あたりの貸出冊数が約1,000冊であったが中央図書館では約2倍となっている。新規利用者登録者数は約4,000人であった。昨年度の全館での新規登録者数が5,861人であることから非常に多くの方が登録をしていただいた。その中で、2年以上貸出実績がない方や有効期限切れのため更新となる方も多く、改めて図書館に足を運ばれたかたも多かった。  
開館式典については、前回お知らせした通りである。  
開館記念イベントについても前回報告した通りである。6ページの(2)市民、大学、多摩センター周辺企業との連携イベントは、前回報告の時には参加者数がまとまっていなかったの



今回報告する。7 ページの4 ポスター等配布物についてということで配布数や配布先をまとめている。ポスターやパンフレット、木のしおりを配布、開館記念グッズとして有償でエコバックを作成した。5 取材等は、紙媒体で11 紙、映像としては5 局、インターネットは9 サイト取材や掲載があった。

2 点目が資料 3-3「国立国会図書館向けデジタル化資料送信サービスの複写サービスの開始について」である。経緯として、国立国会図書館では図書館向けのデジタル化資料送信サービスを行っている。この中で、図書館の館内で資料の閲覧や複写ができるサービスがあり、そのうちの閲覧サービスについては既に提供していたが、中央図書館が開館するにあたり、複写サービスも開始するという内容である。利用対象は利用者カードを登録している在住、在勤、在学者で、申込方法は「国立国会図書館デジタル化資料複写申込書」による書面の申し込みである。申し込みいただき、指定された部分について図書館職員が複写をし、利用者にお渡しする。複写代は有料である。このサービスは中央図書館で9 月 1 日から実施する。他の自治体でも同じサービスをしているところもあるが、中央図書館で行っている自治体が多く、多摩市では中央図書館が豊富な資料を蔵書とするという環境であるので中央図書館で実施することとした。

3 点目が資料 3-4「図書館資料複写及びデータベース印刷申込方法の変更について」である。経緯としては、図書館では著作権法の下で資料の複写を利用者の求めに応じて実施をしているが、多摩市立図書館では平成 9 年に永山図書館が開館した時に「図書館資料の複写の申し込み方法」を本来は、利用者の求めに応じて、図書館が確認するという手順になるが、口頭での申し込みに変更した経緯がある。今回、先ほど説明した「国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの複写サービスを開始するにあたり、図書館資料の複写及びデータベースの印刷申し込みについて申し込み方法を見直し、書面による申し込みとした。これが本来的な形ではないかと思っており、変更の際し、要綱の改正を行った。変更は9 月 1 日からである。

4 点目は、資料 3-5「多摩市立図書館開館 50 周年記念イベントの開催について」である。本年は、中央図書館開館した年でもあるが、多摩市立図書館本館が開館してから 50 年となる節目の年である。開館 50 周年を記念してイベントを開催する。中央図書館開館があったので、イベントの実施は 10 月から 12 月で

ある。詳細は、開催予定一覧のとおりである。本館の閉館及び中央図書館の開館イベントで市民のみなさんからイベントアイデアをいただいた中で内容として50周年にちなんで実施するのがよいのではないかというものを今回実施するものである。応募いただいたアイデアの中でも、これまで図書館とかかわりを持ってボランティア活動などをしていただいた方々などが手を挙げていただいたものである。報告は以上である。

会長 入館者数は減っていくと思うが、100万どころではないかもしれない。

図書館長 8月は夏休みもあったので特別な期間であったと思う。9月以降がどうなるかである。

委員 開館したばかりでいろんなところに手が回らなかったと思うが、9月になると少し余裕が出てくるのではないか。職員が目が届かないところがある。人が少なくなってきた時に目が届かないところでだれか具合悪くなっても気づかない。サテライトカウンターにもほとんど人がいない状況であるが、人を配置してほしい。

図書館長 開館前に配架や書架整理をしたり、清掃をしたりしている。補助スタッフというかたちで新たに雇用することも考えている。サテライトカウンターも当初は人を置くつもりであったが、利用者登録が驚くほど多く手が回らない。できる限り、改善していきたい。

会長 すべての議事は終了した。  
本日の第3回定例会は終了する。